PHILIP HAMMOND

Chancellor of the Exchequer from 2016 to 2019

LONDON SPEAKER BUREAU

Topics

- Economics
- Europe
- Leadership
- Strategy

フィリップハモンドは、英国の内閣大臣であり、英国政府の主要メンバーとして約10年間務めています。彼は9年間で4つの部署を率い、政府で2番目に強力な職に昇格し、2010年から2019年まで英国内閣で継続的に奉仕するたった3人のうちの1人であり、David Cameron首相とTheresa May首相の下で務めています。

2016年のEU離脱国民投票の直後に大蔵長官の役割を果たしたハモンドは、前例のない不確実性の時代にイギリス経済を担当しました。

フィリップハモンドは常に、貧しくなったり安全性が低下したりする目的でBrexitに投票した人はいないとの見方を強く主張しており、国民投票の結果を提供する最善の方法は、英国と英国がEUを離脱した後でも、EUは経済的に閉鎖されます。

彼はキャビネット内でこのアプローチのために強く戦った、そして政府を去って以来そうし続けた。また、企業のニーズ、特にロンドンのグローバル金融市場を保護する必要性にも焦点を当てました。

フィリップハモンドは、先進国が直面する課題、特に次のことに焦点を当てています。技術革命と、それがすでに私たちの働き方と生活様式をどのように変えているか。気候変動と市場経済を利用して脱炭素化を実現する方法人口動態の変化と高齢化の課題、特に英国では、生産性向上の課題。

首相および外務大臣としての彼の役割を通じて、ハモンドは中国との協業において相当な経験を有しており、世界システムへの主要な経済的および戦略的権力としての中国の統合をいかに管理するかについて明確な見解を持っています。彼はまた、湾岸地域で強いつながりがあります。

彼は2015年にJCPOAの核兵器管理協定をイランと交渉した、E3 + 3、チームの一員でした。ハモンドは、国防長官を務めた後、外務大臣として、米国およびその他の同盟国の民間および軍との強いつながりを築きました、そしてキャンペーン中に頻繁にアフガニスタンを訪れました。

フィリップハモンドは、ウエスタンアライアンスが直面している戦略的課題、および経済的影響と戦略的影響の相互関係に深い関心を持っています。

ハモンドはイギリスのエセックスで育ち、オックスフォード大学カレッジで哲学、政治学および経済学を学びました。 1997年に議会に入る前に、彼は多くの成功した企業を経営していました。彼は、ラニーミードとウェイブリッジのサリー選挙区の議員であり続けています。